



# 音響・映像メディア学科 学科 改編の評価について

広島工業大学専門学校  
音響・映像メディア学科 学科長 川戸 幸弘

## はじめに

本校では、2012年より「音響芸術学科」と「映像メディア学科」を統合し「音響・映像メディア学科」として再スタートしました。その統合の狙いは、企業から求められる幅広い専門領域の知識と技術に対応できる技術者の育成でした。

学科改編から7年目を迎えた今日まで、音響、映像、照明、イベント企画・運営に関する専門教育と業界人として必要な素養を身に付ける教育を実践してきました。また、施設・設備などの教育環境も業界の動向に合わせて整備し続けてきました。その結果を業界関係者の意見や学生の満足度調査などから判断すると、学科統合は概ね順調であると評価することができます。

本稿では、学科改編時に設定した学科の目標と本学科ならではの特色ある科目や実践的な取り組みについて、紹介します。

## 学科の目標

### ・専門教育に関する目標

音響・映像・照明・イベント関係業務に従事するための知識と技術の習得

業務内容の理解
各種機器・ソフトウェアの知識及び操作技術の習得
各種のコンテンツ制作と評価
問題解決能力の育成

### ・業界人の素養に関する教育の目標

社会人としての基礎知識及びマナーの修得
コミュニケーション能力の向上
安全意識の向上

## ・就職に関する目標

本学科で目指す仕事は、音響関係で音響エンジニア、レコーディングエンジニア、MAエンジニアなど、映像関係でカメラマン、映像ディレクター、映像エディターなど、その他にも舞台照明技術者、イベントプランナーなどがあります。

## 業界関係企業の求人社数

年度	求人社数
2013	47
2014	63
2015	58
2016	89
2017	75
2018	90

※2018年度は10月末現在

## 就職率

年度	就職率
2013	86.4%
2014	100%
2015	100%
2016	100%
2017	95.8%

2018年度の求人数は、2020年東京オリンピックの影響も少なからずあると思われませんが、学校に届く求人票による求人数は卒業予定者数の3倍以上あり、電話などによる企業の口頭による求人など、他の求人情報を加えると、相当数の求人があります。地域の内訳は東京を中心とした関東方面の企業に続き、広島、大阪の企業からの求人が多くあります。就職率は、ここ数年100%に近い値を維持し、そのほ

とんどが映像や音響にかかわる企業に就職しています。

## ・資格・検定に関する目標

本学科では、主に音響・映像・照明の知識・技術に関する専門的な資格試験に取り組みます。映像音響処理技術者資格認定試験や、国家技能検定 舞台機構調整技能検定試験2級・3級などの資格取得を目指しています。合格目標とする、全ての資格・検定試験に対して授業や補講により対策を行っています。また、合格率については、年度により異なりますが、概ね全国平均を上回っています。これらの試験を受験することは、学生にとっては、目標を定めて勉強に励み知識の定着につながることで、履歴書等に記載できることなどのメリットがあることから、多くの学生が積極的に挑戦しています。

## ・入学者数に関する目標

オープンキャンパス、出前授業、進路説明会など、積極的に広報活動を行う中で、常に参加者の立場に立った誠実な対応を心掛けています。

数ある競合校の中で本学科が選ばれ続けているのは、本校が広島で音響・映像・照明の知識・技術を学ぶことが出来る教育機関のパイオニアであることや、学園・学校に対する信頼感と実績や特色ある教育が評価された結果であると思われれます。

## 学科改編後の入学者数

年度	入学者数(人)		
	男子	女子	合計
2012	16	10	26
2013	25	8	33
2014	19	16	35
2015	19	15	34
2016	21	15	36
2017	17	16	33
2018	16	14	30

今年度は、オープンキャンパスの参加者が大幅に増加し、2019年度の入学生募集については、定員40名を超える出願数となったため10月末で募集を締め切りました。

## 魅力あふれる特色ある科目

専門学校の魅力の一つは、なんと言っても各学校の特色をしっかりと教育内容に反映できることです。本校本学科においても、基礎・基本となる理論や現場を見据えた実技の科目をベースとして、魅力あふれる特色ある科目を開講しています。

### ・コンサート実習(企業連携科目)

コンサートやテレビ番組を想定し、音響、映像、照明、制作の各部門に学生をグループ分けし、連携企業の指導者のもとで学生自らが企画・制作・運営を行う総合的かつ実践的な実習を展開しています。この実習の成果物として、広島市中区民文化センターを会場とし、学校主催のドリーマーコンサートを開催しています。今年度は残念ながら、西日本豪雨により本番を迎えることが出来ませんでした。



第38回ドリーマーコンサートのリハーサル風景

たが、学生たちは、多くのことを学びました。

### ・演技・表現技法

半年間、ラジオ・テレビのパソナリティーのキムラミチタ氏を中心に、広島を拠点に活躍されているフォトグラファー、映画監督など、様々な表現者、演技者に教壇に立っていただき、学生たちの心に響く講義やワークショップをおこなっています。学生たちの満足度が非常に高い科目です。



話題の映画「鯉のはなシアター」の時川英之監督の講義後、監督を囲む学生たち

## 特色ある取り組み

### ・実習科目の評価

音響・映像の実習科目の評価については、実技試験を実施し、ケーブル巻き、ミキサーなどの音響機器の接続と音出し、業務用のカメラと三脚のセッティング、映像が表示されないモニターに対し対策を講じるなど、基礎から応用までの技術的課題に対し、限られた時間内におこなうという試験を行っています。学生全員が緊張感を持って、真剣に取り組み、正確かつ公平な評価を受けることにより、学生の技術力向上につながっています。

### ・大舞台で技術的な地域貢献

毎年のように本学科に対して、学外より音響・映像・照明などの技術に関する業務依頼があります。今年度は、歌手さだまさしさんのコンサートも行われた小屋浦地区復興支援イベント「復興祭」の音響業務全般などを担当しました

学生たちにとっては、大舞台での技術的な地域貢献を通して、多くのことを学び、喜びや達成感を味わうことができる貴重な経験になっています。



コンサート終了後、さだまさしさんと音響を担当した学生たち写真提供(【さだまさしインスタグラム】より)

## 『夢』と『希望』と『覚悟』

私たちは、オープンキャンパスの参加者に対して、将来、業界の裏方として活躍するため、入学後2年間、迷うことなく学業に励むという意味で、『夢』と『希望』と『覚悟』を持って入学してほしい」と伝えていきます。2019年度は、さらに多くの入学生を迎える予定となり、改めて身の引き締まる思いがしています。彼らを社会人として、技術者として立派に育てる覚悟を持って笑顔で迎えたいと思っています。